

4段階評価	4：期待以上	3：ほぼ期待どおり	2：やや期待を下回る	1：改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	○ 「凡事徹底」を基盤とした指導による「仲間と共に知恵をしぼり、思いやりの心をもって、最後までやりぬく児童」の育成
--------------	---

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知育	重点目標 ○ 「学びたい」意欲をもって、主体的かつ積極的に学習し、着実に学力を身に付けていく児童の育成 手段 1 授業の充実・改善・・・規律と活気があり「わかる・できる」授業 2 家庭学習の徹底 3 読書の推進「読み聞かせ」、図書館協力員との連携 等 4 新聞の活用 5 ICTの有効な日常活用 6 特別支援教育を意識した学習指導の充実 7 キャリア教育の充実	1について ○ 1人2回の授業公開を行い、授業力向上に努めることができた。授業公開による教師一人一人の授業力向上で学力向上にも努めた。 ○ 「栗っ子タイム」(弱点を克服し、習熟を図る時間)により、児童が「分かる」ための指導を行うことができた。 2について ○ 家庭学習については保護者の協力もあり、充実した指導が可能となっている。最後まで見届ける指導ができています。 3について ○ 読み聞かせグループ「たんぽぽ」や図書館協力員の協力もあり、充実した読書指導、図書室経営がなされた。 ○ 年間貸出目標1人80冊に対し、12月末時点で1人66冊の貸し出しである。残り2か月で目標へ近づきたい。 4について ○ こども新聞を活用し、「朝の新聞読み」については継続して行うことができた。今後、発達段階に応じた記事の提供も必要と考える。新聞への投稿については十分行うことができなかった。 5について ○ 各教科の授業を中心にタブレット端末の活用ができた。今後も教師と児童のICT活用のスキルアップを図り、更なる有効活用を行っていききたい。 6について ○ 夏季休業中のオンライン研修や特支コーディネーターによる「特別支援教育だより」の発行等により「特別支援教育」に対する意識向上を図ることができた。 7について ○ 様々な外部講師の活用、「みかんやまスマイルフェスタ」等の体験を通して、小学生の発達段階に応じたキャリア教育の充実が図ることができた。	3	3	○ 授業力向上については、日々教職員の努力があり、児童が「分かる」ための指導をされていると思います。各家庭での学習がもう少し充実できると個人の力が付くのではないかと思います。タブレット活用で学習の幅は広がり、指導する側も大変と思うが今後も継続して取り組んでいきたい。 ○ 「栗っ子タイム」弱点克服の時間、習熟を図る時間はとても大切だと思うので今後も継続をお願いしたいです。 ○ 学級閉鎖に伴い、自宅学習をしましたが、自宅でもオンライン授業を受けられる体制を整えられたらと思います。今後もどのような形で学級閉鎖になるかは分かりませんが、1日に数コマでもオンラインで受けられたら学習の遅れ等の心配が少しでも減るのではないかと感じました。 ○ 本年度も引き続きコロナ禍のため、学校を個人的に参観することができず、2回の運営協議会での参観のみのため日々の状況を参観することができなかった。 ○ 参観日の様子を参観する限りでは基本的な学習習慣や学習姿勢(立腰の徹底)は素晴らしいと感じました。(凡事徹底の成果だと思います。) ○ タブレット活用については、先生方のICT研修の研鑽の成果が顕著に発揮され、児童の使用態度もよく、狙いに沿った効果が出ているのではないかと思います。 ○ 日々の授業も子どもも授業が分かりやすいとの事でありがたいです。コロナの関係で子ども達が学校に長期間行けなくなった場合はすごく不安になると思うので、オンライン授業ができるよう、小林市でも環境が整ってほしいなと思います。 ○ 家庭学習もそれぞれがんばっているのではないかと思います。 ○ 子ども達が本を読む時間を楽しみしている。読み聞かせもありがたいです。 ○ テレビモニターやタブレットを活用して授業ができています。 ○ それぞれ子ども達にあった授業が考慮されている。 ○ 様々な職業を知ってほしいです。みかんやまスマイルフェスタでは、消防士の方の救助の様子を近くで見られて、貴重な体験となりました。
徳育	重点目標 ○ 自他のいのちやきまり、礼儀を尊重し、日々実践する児童の育成 手段 1 気持ちのこもったあいさつ、返事、会釈の徹底 2 児童の実態に基づいた道徳教育・人権教育の充実 3 いじめ・不登校に関する指導の充実 4 清掃指導の徹底(一所懸命、無言清掃 等) 5 きまりの徹底(「栗須小学校のきまり」 等) 6 安全指導の徹底(交通、生活、登下校、遊び 等) 7 「ZOOM」等を活用した集会等の実施	1について ○ あいさつについては十分に満足できるまでは至っていない。大人が見本となって学校、家庭、地域が一体となった指導が必要と考える。 2について ○ 「西諸みんなで人権を考える取組」に合わせて、人権について考える学習を計画的に行うことができた。また「ポッチャ」の体験により、障がい者スポーツへの関心も高まった。 3について ○ いじめや不登校の問題については月1回の「スマイル委員会」において全職員で話し合いながら対応にあたっている。「いじめ」については積極的認知に努めている。 4について ○ 清掃に無言で取り組む落ち着いた雰囲気広がっている。今後もしっかりと見届けを行いながら指導を行っていききたい。 5について ○ 各学級において「栗須っ子のきまり」を使って、日常指導の徹底ときまりを守る意義について指導を行っている。 6について ○ 安全指導については担任一人ではなく、職員が協力し合い複数の体制で指導を行うようにしている。登校時の立ち番指導等は地区やPTAの各部ごとにも協力をいただいております、ありがたい。 7について ○ 毎月の全校集会等、ZOOMを利用してオンラインで実施できた。新型コロナウイルスの感染拡大時には終業式等も各教室と校長室をオンラインでつなぎ実施した。	3	3	○ あいさつからすべての事がよくなると考えると、学校・家庭・地域と関わるすべての大人が実践し、子ども達に伝えていかなければならない。栗須小にはそういった環境がつかれると思うので、もっと全体での取組を増やして、大人が目を見ていきたい。 ○ 誰に対しても気持ちのよいあいさつができるように家庭でも指導していきたいです。また、誰に対しても平等に接することができるような考え方、家庭での指導も必要のように感じます。「自分がされて嫌なことは他人にしない」「自分がされたらどうか、言われたらどう思うか」等、基本的な事を大切に家庭での指導も必要だと思います。 ○ 孫の通学時間帯等に家の前で、妻と二人で朝のあいさつを見ていると、元気よく自分から大きな声で、先にあいさつしてくれる子どもさん、こちらから声かけして返してくれる子どもさん、こちらから声かけしてもほぼ無視……。それぞれです。中学生と丁度ずれ違う時間帯です。 ○ 横断歩道もすごく心配です。1年生は特に小さくて運転者にはなかなか気付いてもらえません。事故抑止も込めて(歩行者がいますよー)と歩道側に寄って横断を確認しています。特に出勤時間帯のためとても心配です。日々交通事故が起きないことを願うばかりです。 ○ 学校の取り組みによって、決まりを守り・いじめや不登校児童が0であるように聞いています。この状態を今後も継続して行ってほしいと思います。(SNS等によるトラブルもお願いします。) ○ うちの子どもも登校班長をしていて、率先して挨拶をするように家でも言い聞かせていたのですが、子どもどうしてもあまり挨拶を交わしていないようでした。班長や高学年の子ども達から元気に挨拶をして、習慣にならないうえなと思います。 ○ 人権について子ども達や親も考える事はすごく大事な事なので、これからも続けてほしいです。一人一人の個性を大事にして、いじめが起きない、いじめが起きたら認知して慎重に対応していただけるのはありがたいです。 ○ コロナ差別への対応が特にすばらしかった。各家庭でも子ども達に思いやりをもった行動ができるよう声かけする事ができたのではないかと思います。 ○ 登校する道が、車の通りが多く、事故も多いので、見守りや安全の声かけを徹底して続けてほしいです。 ○ 栗須小の子ども達も、自分たちが学校へ行くときみんな挨拶をしてくれて気持ちいいです。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
体育	重点目標 ○ 自分の身体の状態に関心をもち、健康の保持増進や体力の向上に進んで取り組む児童の育成 手段 1 集団行動の基本様式の定着 2 体力・運動能力の向上 3 新型コロナウイルス感染、熱中症予防への対応 4 疾病治療の推進 5 立腰の徹底	1について ○ 集団行動の基本的な動き等は、年度初めの集団行動についての指導と、運動会等の体育的行事を通じて行っている。コロナ禍による全校で集まる機会が減っているが、基本的な動きについてはしっかり身に付けられるように指導を行っていききたい。 2について ○ 2年ぶりに体力テストが実施でき、「握力」と「ボール投げ」が本校の課題であることが明らかになった。次年度に向けて課題克服のための運動を取り入れていく。 3について ○ 新型コロナウイルス対策については、保健主事を中心に全職員で協力して対策を行う共に、児童への指導を行うことができた。運動会時期の熱中症対策については本年度ミスト付き扇風機をレンタルした。 4について ○ 1月時点での歯科医の治療率が71%、眼科の受診率が74%である。継続して各家庭への治療勧告を行っていく。 5について ○ 立腰についての自己評価では約76%の児童ができているという回答をしている（昨年度66%）。今後も継続して指導を行っていく。	2	3	○ コロナの影響によるもの大きいと思うが、自宅での時間が増えたことで、家庭での過ごし方を考え、子ども達の体力向上に努めなければならぬ。持久走の取組も検討を重ね、今後もよりよいものにしていきたい。 ○ 新型コロナウイルスや熱中症について積極的に対策をとってもらい、ありがたいです。 ○ 運動会と持久走大会の様子を参観しましたが、全児童先生方の指示をよく理解し、元気よく・楽しく活動している様子は大変感動を受けました。 ○ 治療率を100%にすることは、非常に難しいことだと痛感しています。今年度は特にコロナ禍でもあり厳しい状況の中、7割を超えていることは保護者の意識と学校の姿勢の表れだと思います。今後も継続し、100%を目指してください。 ○ 運動会や持久走などで、集団行動が身に付いていると思いました。 ○ コロナ禍により、さらに子ども達の体力、筋力が落ちているように感じます。 ○ コロナウイルスの対応は日頃の対策が小学校では難しいと思いますが、習慣付いてきているのではないかと思います。 ○ 毎年、定期的に検診があり安心。 ○ 1年生の時から立腰をする習慣を指導してくださっているので、身に付いている子どもも多いのではないかと思います。 ○ 持久走大会も、みんな一生懸命に走っていたと思います。今、スポーツ少年団に加入している割合はどれぐらいなのでしょう。
食育	重点目標 ○ 食に感心をもち、望ましい食習慣を实践する児童の育成 手段 1 TTによる食に関する授業の推進 2 給食の時間の指導の充実 3 「弁当の日」の推進 4 米作りや交流給食等の食に関する体験活動の充実 5 個別の相談指導の充実 6 朝食指導の充実	1について ○ 12月食育参観日には学校栄養職員を外部講師と招き、学級担任と養護教諭、学校栄養職員論が協力して食についての授業を行った。保護者からの感想でも高い評価をいただくことができた。 2について ○ コロナ禍による黙食の日々が続いたが、給食時間中に放送で献立について説明したり、季節の行事食を紹介したりすることができた。残食0への取組も継続して行っているところである。 3について ○ 「弁当の日」の他にも、本校では長期休業中に家庭での食事作りを課題として出しており、食に対する関心を高める活動を行っている。児童から出されたレポートはどれも大変充実しており、定着した行事となっている。 4について ○ コロナ禍により交流給食は実施できなかったが、米作りについては田植えから稲刈り、収穫祭の餅つきまで実施することができ、体験的に「食」のありがたさについて学ぶことができた。 5について ○ 肥満傾向の児童が増加傾向にある。昨年度は実施できなかったが、本年度は小林市健康推進課の協力も得ながら指導を行うことができている。 6について ○ 朝食についてはほぼ100%の摂食率を維持することができている。朝の慌ただしい時間ではあるが、今後栄養のバランス等も考えた朝の食事内容についても、学校から発信していきたい。	3	3	○ 食育に関してもコロナの影響があり、自宅での食事が増え、食に携わる機会も増え、子ども達が台所に立つことも増えた。よい機会と捉え、食への関心を高めたいと思っている。 ○ コロナ禍であっても「食」に対する体験を何ができるかを模索し、子ども達に体験させていただけなのでありがたく思います。「弁当の日」や食育に関する宿題は頭を悩ませる一つでもあります。親子のコミュニケーションの時間にもなっています。また、1年1年、回を重ねるごとに子どもの成長を見ることができると、貴重な時間です。 ○ 今年度は、全児童による田植え・稲刈りを実施することができず非常に残念でした。しかし、みかんやまふスタにおいて、5年生の餅米販売に関わる活動は本年度も良かったと思います。餅米の販売は地域住民として大変嬉しく思います。今後もよろしくお願いします。 ○ 脳舌性のためにも朝食の摂食率ほぼ100%というのを継続して行ってください。 ○ 食育に力を入れて教育してくださっていると感じます。子ども達の食についての知識が身に付いていると思います。 ○ コロナ対策などで黙食の日々ですが、残食0の声かけなどを続けてくださっている。子ども達にも給食のありがたさや、食べ物への栄養の大事さを伝えていきたいです。コロナ禍で難しいですが、みんなで楽しくおいしく食べて、残食0に近づいてほしいです。 ○ お弁当の日のおかずで子どもと料理する機会が増えたので、とてもよい取組だと思います。 ○ お米ができる期間の長さや大変さを学べているのではないかと思います。 ○ 肥満も健康に影響を与えるので指導を続けてほしいです。 ○ 朝、しっかり食べることが減ってきているのではないかと感じる。 ○ コロナ禍によりまだ給食の試食に参加できていないため、回答が難しいが、コロナが収束したら一度食べてみたい。
その他	○ 人材育成・働き方改革について 手段 1 全職員の授業力向上と、授業論文への積極的な取組 2 月45時間以上残業する職員「0」 3 ICTの活用・ペーパーレスによる会議の簡略化	1について ○ 1人年2回の授業公開を行い、授業力向上に努めた。また、教育弘済会の論文に応募することができた。 2について ○ 全員達成はできなかったが、月45時間以上残業する職員は確実に減っている。 3について ○ 職員会ではICTを活用し、ほぼすべての会議でペーパーレスを実施できた。	2	3	○ 職員が健康で活力をもってもらえるように、家庭と地域がサポートし、よりよい子育てができることよと思う。 ○ 「月45時間の残業」・・・先生達は忙しいと思っていましたが、単純に残業の多さにびっくりでした。子ども達のためにいつもありがとうございます。 ○ 校長を中心に全職員での取組を期待しています。教職公務員としての誇りと自信をもって地域の皆さんに信頼される教職員集団を構築してください。 ○ 先生方の業務の多さには大変ご苦労をおかけしていますが、これも将来の小林・宮崎・日本を背負う人材育成ですのでよろしくお願いします。 ○ 以前より先生方の残業が減ってきているのではないかと感じます。コロナ禍で難しいですが、ボランティアの方の協力や業務などを手助けして下さる人材の確保が必要だと思います。

次年度の方向性についての校長所見	本年度はタブレットの活用が大幅に進んだ1年となった。次年度以降もタブレット活用を更に図ると共に、学力向上のための取組を進めていきたい。また、あいさつについては、「気持ちのこもったあいさつ」ができる栗須っ子を育てていくために、学校と共に家庭や地域の協力を得ながら取り組んでいく必要があると感じている。そのために、まずは子ども達に自分自身の事として捉えさせ、よく考えさせながらあいさつについての手立てを講じていきたい。コロナ禍における学校生活も3年目となるが、感染対策はもちろんのこと、次年度以降も学校経営ビジョンにある「凡事徹底」を基にした指導と支援により「喜んで登校 満足して下校」できる子ども達を育成していく。
-------------------------	--